

も学者も一致して景気の先行きを悲観していたが金子は一人樂觀的である。根拠は干支である。

「それは外でもない。今年は実に兎の年である。兎というものは、上へ上へと向上する一方である。鉄砲を向けても決して横に外れたり、下の方に隠れたりせずに、どこまでも、上の方に上の方へと飛んでゆく。…今年の財界はいよいよ上向きに転ずるに違いないと、こう大ざっぱな観測を下している」

金子は「まず図表を見ていただきたい」と三角形を描き、三辺を十二分割して十二支をあてはめながら講釈に力が入る。その詳細を記す紙幅はないが、本丸が落城に瀕しながらも、「鈴木がこける時は日本がこける時だよ」と、氣にとめる風もなく持論を繰り広げる。明治維新以来の経済事象と兎年の歩みを重ねながらの「卯年好景気論」は何時しか人々をその氣にさせるのだから不思議だ。二ヵ月後の経営破綻など頭の片隅にもないようである。

豪州人に惹かれた金子直吉翁

金子直吉翁は昭和十九年（一九四四年）に亡くなって今年で七十年になります。鈴木商店のOBの親睦団体辰巳会は五月に神戸ポートピアホテルで七十年祭が行われます。

昭和五十三年十月の神戸新聞にオーストラリア人のインタビュー記事がありました。その人はなかなかの日本通でグリフィス大学で日本史を教えるロバート・D・ウォルトンさん。ウォルトンさんはなぜ鈴木商店の金子に惹かれたのかに記事では「総合商社の歴史といえば、三井、三菱が頭に浮かびます。けれども財閥銀

行を後ろに持たない鈴木店の生成こそ日本的です。近代国家へのすばらしい脱皮。明治・大正の時代の、彼はまさに日本のシンボルでしょう。貧乏で信用もない。その彼が砂糖と樟脳から事業を興し、エントツ男の異名どおり人絹や人工硫酸といった新技術を導入しました。普通の人よりきびしく、そして親切に…というキャラクターはマネができません。」

長秘密はあくまで、金子が代表するよう個から生まれています。いま、サラリーマンは組織の中で自信を失っているみたい。組織にがんじがらめになっても、独立をめざす覇気がほしいんです。もっと胸を張るべきです。」

ウォルトンさんの「あのころは個の時代」平成のこの時代になって若い起業家が輩出しています。それにしても直吉翁はいかに巨大な「個」であったのかを知ることです。

このインタビューは辰巳会本部（太陽鉦工内）で幹事の柳田義一さんが応対されて行われました。

（記事引用 神戸新聞 昭和五十三年十月十三日）

辰巳会だより

辰巳会 本部総会

平成二十四年五月二十三日（水曜日） 正午
於 神戸ポートピアホテル

南館四階「レヴァンテ」

今年の会場は昨年同様の港島の神戸ポートピアホテルでの開催です。本日の開始に当り司会者の話があり、例年五月は辰巳会の全国大会として開催していますが、辰巳会発足から五十二年になり会員数が相当数減少して、神戸本部、東京支部の他に北は北海道から南は九州までの四支部の会員はほとんどが他界されました。それ故、四支部は残念ながら昭和の時代で自然解散しています。本来、本日の辰巳会は全国から出席される大会の催しですが、出席者はほぼ関西在住の皆様になり、東京支部の皆様も高齢から出席が難しくなっています。本日の開催要領に全国大会の名が消えていることの説明がありました。

この後、例年の会務報告は司会者から、五月十四日祥龍寺で幹事参列のもとに物故者法要が執り行われ、物故者二名の方が過去帳に記載され、総数一二〇名にわたることが報告されました。

宴を始めるにあたり柳田辰巳幹事のご発声で一同乾杯をして会食と

なりました。

今回初めての出席になる三名の紹介があり、東京の鍋島高明様は来月より高知新聞に金子直吉を基にした鈴木商店を連載されることになり、これに関連したお話をされました。

スピーチ

鍋島 高明 様

市場経済研究所会長

毎週書かれているコラムのことから、出光佐造は明治四十二年に神戸高商で鈴木商店を受験したが高畑誠一、永井幸太郎には早々と合格通知がきたけど出光佐造にはこないことで、わずか三人の酒井商店に入り、その後で合格通知がきたけど決めた約束を守り鈴木にはいかなかった。もしも鈴木に入っていたら面白いドラマがあったのではないかと思う。出光は鈴木と同じように株を公開せ

平成二十四年度 辰巳会本部総会御出席者名簿 （順不同・敬称略）

安東 浄	中 宏
池田 泰雄	中村 裕
今村 三郎	矢倉 慎吾
扇谷 勉宏	西村 昌彦
扇谷 睦	王 鞍 延子
大谷 淳子	大塚 融
小野 晶子	井上 常子
楠瀬 正明	小宮 由次
鈴木 孝子	前田 章賀
高畑 美紀	鍋島 高明
東條 佳子	二十四名
松下 重男	（事務局）
柳田 辰巳	金野 和夫
貴答 恵子	貴答 祥子

ずに個人商店として、
今も株を上場してい
ないのではないかと、
株主や配当金で難し
いことになるよりは
とのことは金子さん
に似たところがある
ようだと思います。

司会者から紹介が
ありました様に、高
知新聞に来月から八
十回を予定して金子
直吉・鈴木商店物語
を連載します。

ここで思うことは、
鈴木商店が何故あれ
だけの人材が出たの
だろう、また大臣が

戦後五人も出ていることが不思議でしかたないです。ただ二つの理由
があるのではないかと思う。一つは相当の優れた人材を集めたこと、
もう一つは若い人に仕事を任せて、しかも思惑的な仕事もやらせ、失
敗したらしょうがないとの事で大胆に仕事を任せていったとの点があ
るように思う。

— 以下略させていただきます —



本部 新年例会

平成二十四年一月二十六日（木曜日）正午
於 神戸三宮「第一樓」

平成二十四年の新年例会は一月二十六日に会場を中国料理の店、神
戸「第一樓」で開催されました。

このところ寒い日が続き、本日も気温が五度程度の冷たい日になり
ましたが、例年変わらない出席者数になりました。

例会を始めるに当たり安東幹事長より本日も和やかにやりましょ
うのご挨拶があり、このあと、高畑宗一様のご発声で乾杯をして会食
になりました。

本日出席されている姫百合会会長井上常子様とご親交があり、以前
にもお出でいただいている古溝茂先生（当時神戸市教育委員会、現市
立神港高校校長）が忙しい中かけつけて下さり「神港高校は井上さん
のご出身で創立に貢献された鈴木よね様の神戸女子商業学校から幾度
かの学校統廃合があり今年百周年を迎えます。当校は、更にこの先で
兵庫商業高校との統廃合が計画され、平成二十八年開校予定です。皆
さんとの席でご歓談したいところですが所用のためこれで失礼しま
す。」とお話がありました。

宴も進み、スピーチを頂き最初に遠路高知県四万十市からご出席さ
れた澤田勝行様に直吉翁に関係した調査の話を、同じく高知市の金井
明様は高知新聞に連載された「赤鉄橋の時代と鈴木商店」のお話をさ

れました。

神戸の郷土史家前田章賀様は義経の神戸における平家攻めについて
皆さんに渡された資料を基にお話しされました。

本日は盛り沢山のスピーチがあり、安東幹事長から直吉翁が亡くな
られて来年は七十年になり年祭を企画するお話しがありました。また、
人物史の研究から楽しいお話しをされる大塚融様、井上常子様は姫百
合会が女子商業九十五周年記念行事を開催されること、スピーチの時



平成二十四年度
本部新年例会御出席者名簿
（順不同・敬称略）

安東 浄	中村 裕
池田 泰雄	松下 重男
池田 麻里	松本 一郎
扇谷 睦	矢倉 慎吾
王鞍 延子	柳田 辰巳
大谷 淳子	井上 常子
落合 滋	佐々木 芳江
大塚 融	前田 章賀
小野 晶子	澤田 勝行
楠瀬 正明	金井 明
鈴木 孝子	（事務局）
高畑 宗一	金野 和夫
高畑 美紀	貴答 祥子
貴答 恵子	
東條 佳子	二十七名

間が足らなくなるほどで所定の時刻になりました。

■スピーチ

金井 明 様

高知文学学校運営委員

高知新聞にもう少しで終わりますが「赤鉄橋の時代と鈴木商店」を
連載しています。そこに金子直吉さんのことが出てきます。金子直吉
さんを調べていますと知らないことばかりで、始めに直吉さんの生ま
れた所、その場所にこだわりました。生まれ故郷を調べていると書物
に出ていないことがあり、高知新聞に二十数回書いています。金子
直吉さんのことが主ですが、書いておきますと 金子直吉が非常に偉
大であったことをますます感じることでした。直吉さんの本がいろい
ろ出ていますが、あれだけの人物が高知県から出ているに拘らずもつ
と大きく取り上げていただくように各方面にお願いしたい思いで高知
新聞に連載し終わりに近づいています。しかし、調べるほど直吉さん
は日本一の実業家であったことが解ってきました。

澤田 勝行 様

西南四国歴史文化研究会

金井さんの補足になりますが、金子直吉の弟（楠馬）が陶器店をや
り実質お母さんの為に直吉が坂本龍馬の生家を買ったのではない
かと、現在その所には上町病院が建っています。弟の長女が医者で結
婚して実家に病院を建てた。金子直吉の姪が院長の夫人であったこと
が分かった。

戦争末期に金子直吉が買い与えた 金子陶器店の真向かいに藤井産

婦人科の百坪の家がありました。その家にB29が真逆さまに飛び込んだことが調査で分かりました。何故飛び込んだかは乗員が十二名であったが十一の死体しかなかったことで戦後すぐに進駐軍が何度も調べにきてもう一死体ないけどどうしたのだとのことから高知には「私は貝になりたい」、これは高射砲陣地が分らないように、上方の焼夷弾によるものにしていた。(赤鉄橋) 大正八年に橋が架かることが決まり、十年に木橋で年頭初に架ける話が年の半ばから急遽赤鉄橋に切り換えた。原内閣の分身と言われる阿部知事が着任し高知大学前身高知高等学校が原内閣の政策の中で出来ると同時に木橋計画が赤鉄橋になる。赤鉄橋は海軍絡みの宿毛湾の連合艦隊基地のバックヤードとして兵隊輸送が考えられる。他には、船鉄交渉で、八八艦隊の直前にニューヨーク支店長であった南治之助は中村出身で樟脳を商う「いまり屋」の六男で東京高商を出て鈴木商店に入りロンドン支店長になる高畑誠一と相対するところで両者の樟脳がらみについて研究を進めています。

本部 秋季例会

平成二十四年十月二十四日(水曜日) 正午

於 ホテルクラウンパレス神戸内 六階
マールカスクエア神戸「ステューディオC」

今回の会場はJR神戸駅前にありましたホテルニューオータニが閉店後、全面改装してオープンしたホテルでの開催でした。

司会者より開会に先立ち辰巳会幹事松下重男様が十月十九日に享年

九十一歳で亡くなられたお知らせがありました。松下様は四十二年に亘り幹事をされ辰巳会に尽力されました。本日出席されています皆様と松下様のご冥福を祈り一同黙祷を捧げました。

開会にあたり、太陽鉦工の鈴木一誠社長より辰巳会鈴木治雄会長の近況のお話がありました。鈴木会長はお身体は元気ですが、時には記憶のずれがある程度で話はしつかりされておられるとのこと。外出は足の衰えもあり控えることが多くなっておられるとのこと。この後、鈴木社長の会社の業況を話され、会社は特段問題なく推移している心強いお話がありました。

続いて乾杯になり、ご発声を矢倉慎吾様がされ「いつまでもお互いに元気で楽しく生きる願いをこめて」の乾杯で食事になりました。

食事が進む中、本日の初めのスピーチで大塚様は五月の辰巳会に出席された鍋島様が高知新聞に金子直吉と鈴木商店が連載されていること、住田正一氏等著名な歴史人物の話しを披露されました。

次に久し振りのご出席になる月岡定康様は鈴木商店に関する資料を集積した資料館のごとき保存研究の拠点となる施設の提言がり、これに関係して大塚様から、また神戸を中心に歴史研究の活動をされている安井裕次郎様も同様の話をされました。

古溝茂様(神戸市立神港高校校長)は忙しい中出席され、同校の歴史にも刻まれている神戸女子商業学校に多大の支援をされた鈴木よねさんの話をされました。また、同校は神戸市立の商業高校再編で兵庫商業高校との統合が決定しているとのこと。

続いて古溝先生の話にでました女子商業十七回卒業の井上常子様がスピーチされました。井上様は女子商業同窓の姫百合会会長をされています。今年は女子商業創設九十五年になったことで記念行事が開催

された。井上様は、神戸女子商業が女子教育の先駆的な学校であったとされ、それが今日の女性の働く姿を百年前設立の成長の姿であるとの思いを話されました。また、当時の女子教育の英文タイプが今日のパソコンに通じているのではとも。九十二歳とはとても思えないお話し振りで、五年後の女子商業創設百年の記念行事を實行したいと話されていましたが、お元気で開催を確信するお姿です。

和やかな歓談、盛り沢山のスピーチもあつて時間も残り少なくなつたところで、安東幹事長より亡くなられた松下幹事のことから「松下さんとは同期で私より三ヶ月先輩です。今日は皆さんに長寿の健康法

をお話しをと思っていました。九十を越えると一年、二年のことになり話しが一致しないことになるので控えさせていただきます。」

このあと、松下幹事の亡なられる前、八月の幹事会に出席された時の様子から十月までの事を話されました。そして、「私の健康法、高齢は首から上が悪くなるのでこれを大事にしなければ」で締めくくりました。

記念写真を撮りホテルをあとにしました。

東京支部 新年例会

平成二十四年一月十九日(木曜日)

於 東京会館・レストランプルニエ

今年も厳しい冬でした。元旦から寒冷前線がすすわり、日本海側は連日の大雪となり各地に被害が続出、こちら側は晴天続きで異常乾燥に悩まされました。そんな中、一月十九日、新年例会が開催されました。

支部長の荒木正雄様が体調不良で急遽お休みになられたため、事務局より荒木様のメッセージとして今年も会員の皆様が健康に恵まれ、辰巳会の例会に多数参加いただけるよう祈っているとお伝えしました。続いて支部長の安東様から来年が金子直吉翁没後七十年となるので、記念の催しを持ちたいと思っていること、今一番の問題は会員の高齢化で、いかにして若い会員を増やすかであり、皆様の協力をお願いしたいことなどお話があり、さらに高知市及び仁淀のロータリークラブ



平成二十四年度
本部秋季例会御出席者名簿
(順不同・敬称略)

安東 浄	矢倉 慎吾
池田 泰雄	柳田 辰巳
扇谷 睦	王 鞍 延子
貴答 恵子	大塚 融
楠瀬 正明	井上 常子
鈴木 一誠	古溝 茂
東條 佳子	安井 裕次郎
平高 輝男	(事務局)
月岡 定康	金野 和夫
中 宏	貴答 祥子
中村 裕	二十一
藤野 欽司	二十一

が昨年十一月金子翁生誕の地に顕彰碑を建てたことを報告され、その際の写真を配布されました。

池田宗吉様がお立ちになり、今年の年賀状には「去年はなでしこ、今年は双日のジャパン」と書いて鈴木グループの発展を祈念したと述べられ、そのあと力強く乾杯のご発声になり、一同で唱和し会食となりました。

暫くの後、西川泰様がお母様の明子様はこの四月で百三歳を迎えられるが、お近くの介護付の施設でお元氣にお過ごしになられていると報告されました。

事務局が前秘書部（現在ニューヨーク店）勤務の小林正幸様の「坂の上の雲と鈴木商店」と題するメモを配布しました。そこには日露戦争時代の鈴木商店と川崎造船との緊密な関係や神戸製鋼所の設立に係るエピソードなどが書かれていました。ご出席の熊本昌弘様は現在、神戸製鋼所が合併・再編が続く厳しい環境の中で独立してやって行ける柱の一つは造船用の大型クランクシャフトの製造技術であり、先人の先見性にかねがね敬服し、感謝していると話になりました。

ちょうどその時、日本製粉の澤田浩様（会長兼社長）が大阪出張からの帰りの途次にお立ちよりになり、出席の皆様と親しくご挨拶を交わされ、最後までお付き合いをいただきました。

デザートになったところで、双日総合研究所の山本大介様から新年の展望について次のような見解が示されました。一、世界の主要国に首脳交代があるだろうが、どの国に於いてもそれが大きなリスク要因とはなるまい。二、先進国のデフレは解消できず、新興国の成長は減退する。三、日本のマイナス要因は通貨ユーロの危機、イラン、そして円高。プラスは震災復興需要。現在一部に資材、労働力不足が顕在

化してきており、景気の下支えになる。四、ユーロ危機は最後はギリシャ支援でまとまるだろう。米大統領選はオバマ、ロムニーそれぞれが中道に歩み寄り、まともな論争が期待される。野田政権は苦難の連続となる。五、為替はドル七十六〜八十円、ユーロ九十五〜百円、日経平均は現在の八千六百円からは上昇するが一万円を大きくは上回れない。日本企業は円高のなか健闘し臥龍に擬せられている。昇龍になるには問題山積の状態である。

元NHK経済記者の大塚融様が次のお話をされました。
少し前に金子直吉翁の生誕地
高知県名野川村に行ってきた



平成二十四年度
東京支部新年例会御出席者名簿
（順不同・敬称略）

荒木 義弘	武岡 豊彦
安東 浄	土屋 武彦
池田 宗吉	西川 泰
大塚 融	原田 信二
木村 隆治	速水 きみ
熊本 昌弘	松本 幸夫
澤田 浩	松本 一郎
住田 正二	森 美子
武岡 輝彦	山本 大介

した。大変山深い所で直吉翁が最初の商品に樟脳を選んだのがよく分かりました。村では資料館も作るとの話でした。話は変わるが震災関連で、関東大震災の折、永井幸太郎氏が多額の寄付金とお米を被災者に贈った記録が残っています。
予定の時間を過ぎましたので、急ぎ記念の写真を撮ってもらい、散会となりました。

東京支部 春の例会

平成二十四年六月七日（木曜日）

於 帝国ホテル内・なだ万

今年の冬は寒さが厳しく、しかも長かった。そのせいで春の訪れが遅れ、順繰りで梅雨も遅れた。例会が開催された六月七日は例年なら梅雨の最中ですが、今年は朝から一片の雲もない快晴の日でした。
定刻には皆様お揃いになり開会となりました。初参加が三名おられ、それぞれ次のようなご挨拶がありました。

まず橋元新平様について神戸製鋼の熊本昌弘様から、新平様のお父様とは二十五年以上のお付き合いがあり、ご本人も神戸製鋼で仕事を学び、後に家業を継がれ、若くしてその代表者になられた方であるのご紹介がありました。橋元様からは次のようなお話でした。学校（横浜国大）卒業と同時に神戸製鋼に入社、製鉄原料の買い付けなどに従事した後、家業である日本海商事工業に移り、昨年代表取締役社長に就

任。元々は山口県下関市でサルベージなどの港湾事業が主業務、青函連絡船の事故の際には救助に当たった。その後、東京に拠点を移し、新橋汐留地区の開発などに従事する一方で貸しビル事業を展開している。まだ三十九歳と若輩なので辰巳会でいろいろなお話が聞けるのを楽しみにしている。

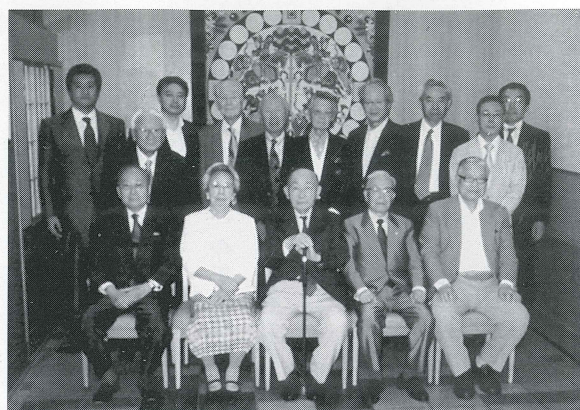
次いで小宮由次様。一九六六年日商入社、非鉄金属に配属、アルミ、電線などを担当。三十年程前から鈴木商店の歴史に興味を持ち、所縁のある場所に出かけては資料を集めて来た。近いうちに出版する運びとなっている。

最後に西村昌彦様。七十二年日商岩井入社、機械部門で神戸製鋼の建設機械の輸出を担当した。その後種々の業務を経てエネルギー金属部門の部門長補佐を勤めていたところ四月一日付で執行役員秘書担当を拝命した。辰巳会の窓口となるのでよろしく。

ここで池田宗吉様がお立ちになり、先ほどの三人の方が共に神戸製鋼と関わりがあったように私自身にとっても神戸製鋼は最も大切なお取引先でした。橋元新平様は以前からよく存じあげており、この会にご参加いただけるのは大変うれしい。関東大震災の際に活躍された後藤新平氏と名前を同じくされる橋元様が、この国難の時に大いに活躍されることを祈りますとおっしゃいました。

池田様のご発声で一同乾杯し、食事となりました。

暫くのち幹事長の安東浄様から五月に例年通り本部幹事が神戸の祥龍寺に集い、物故者の法要を行ったこと、物故者は千二百二十人を越えたこと、そして全国大会も無事終えたことが報告されました。そしてご自宅の古い資料を整理中に発見された高畑誠一氏著の「長寿のしおり」と題する小冊子を回覧されました。



平成二十四年度 東京支部秋の例会御出席者名簿 (順不同・敬称略)			
住田 正二	安東 浄	熊本 昌弘	森 美子
土屋 武彦	武岡 輝彦	池田 宗吉	武岡 豊彦
橋元 新平	松本 一郎	小宮 由次	森島 英一
(東洋海事社長)		(日商岩井OB)	(双日秘書部長)
荒木 正雄	荒木 義弘	西川 泰	

西川泰様はお母様の明子様がこの四月に百三歳の誕生日を迎えられたこと、西荻窪にある施設でお元氣にご機嫌よくお過ごしとお話になりました。出席者は皆、明子様のご健勝を喜び合いました。

デザートになったところで、西村執行役員から双日の近況として、四月一日付けで佐藤洋二氏が社長に就任し、新体制で全社一丸となって頑張っていること、七月の中旬に新築完成するイイノビル（霞が関）に事務所を移転すると報告されました。

次いで小宮様からのお話。鈴木商店を研究しようと思ったのは三十年ほど前に「海鳴り止まず」という芝居を観て大変感激したことがきっかけでした。驚くのは鈴木氏の歴史はわずか五十年に過ぎないのに、その間に金子直吉翁を中心にして数多くのそして多様な事業を立ち上げ

二十メートルを誇る丸ビル最上階にある例会会場からの眺めも、残念ながら厚い雲にさえぎられていました。

定刻には皆様お揃いになり、まず久しぶりにご出席の日本製粉会長の澤田浩様と双日総研の小林正幸様の紹介がありました。続いて幹事長の安東浄様から本部報告として、来年の金子直吉翁の七十年忌について先年の鈴木よね刀自の年忌と同じように執り行うことを検討中であること、現会長の鈴木治雄氏はお元氣にお過ごしであるが、視力の低下があり外出をひかえられていることを述べられ、また元日経の記者の方が高知新聞に連載中の鈴木商店についての記事のコピーを回覧されました。

いつも通り池田宗吉様の力強いご発声で一同乾杯し、会食となりました。

暫くののち、熊本昌弘様がお立ちになり、神戸製鋼の先輩社長であられた亀高素吉氏が十月一日にお亡くなりになったことをお知らせになり、ポルトガル人の血を少し引かれ、また画家であったお母上の影響を受けられた方だけに日本人離れた豪快さの一方で優しさを持ったお方であつたなど故人を偲んでお話しになりました。池田様、橋元新平様からもそれぞれ思い出話が続き、安東様からも亀高氏には辰巳会もお世話になったと述べられました。

平成二十四年度 東京支部秋の例会御出席者名簿 (順不同・敬称略)			
移川 京子	池田 宗吉	安東 浄	橋元 新平
荒木 正雄	澤田 浩	武岡 輝彦	武岡 豊彦
熊本 昌弘	土屋 武彦	小林 正幸	荒木 義弘
山本 大介			

そのうちの多くは今も活躍していること、それと同時に立派な人物を育て、鈴木なきあとも財界、政界、金融界などの分野に多数の逸材を送り出し、その中に大臣になられた方までおられる。そしてもう一つ日本中にある鈴木関連の場所を訪れると、多くの人がいまだに鈴木商店のことを親しみをもって話してくれること、中にはその地域の恩人とまでいわれることです。今年は鈴木商店が名を消して八十五年、年末までに今までの成果を本にする予定です。

佐世保重工の森島会長が今年から監査役をされている親和銀行について、この銀行は地域に密着して地場企業の育成に大きく寄与しているが、その設立には鈴木商店出身の北村徳太郎氏が関わり、後に責任者となられた。同氏のキリスト教に根差した誠実な行風が今も残っていると付け加えられた。

予定の時間となり、全員で記念の写真を撮ってもらい散会しました。

東京支部 秋の例会

平成二十四年十月十八日（木曜日）

於 福臨門・丸ビル店

いつまで続くかと思われた長く厳しい残暑も彼岸をさかいに終わりを告げ、急に周囲が秋めいて来ました。それと同時に例年より早い台風が続いて本土を襲い、秋の例会当日の十月十八日も小笠原から本土に沿って太平洋上を北上する台風の影響であいにくの曇り空、高さ百

秘訣として、乾布摩擦と生山椒の効用についてお話がありました。やがて九十歳をお迎えになる安東様はこの二つを毎日励行するだけで病気が知らずとのことで、いつもお元氣な安東様のお話だけに説得力があります。

デザートの時間になり、久しぶりに参加された小林様から「ニューヨーク店勤務を終えて帰国し、双日総研調査部に配属された。以前から鈴木商店の歴史について興味を持っており、これからも勉強して会社内外にレポートしてゆきたい」とご挨拶がありました。そして双日株式会社の新社長に就任された佐藤洋二氏が先日会社幹部とともに訪れた日商岩井とニチメンの発祥の地及びそれぞれの所縁の地の写真を五ページにまとめたものを全員に配布されました。

ちょうど予定の時間となりましたので、記念の写真を撮ってもらい散会となりました。



物故者お知らせ

御芳名	死亡年月日	享年	鈴木商店との関係
松下 重男	平成24年10月19日	91	太陽産業(株) 太陽鋳工(株)